

2022年5月10日～9日

沖縄復帰50年（NHK県が建議書、中沢啓二、復帰前）、世論調査（NHK、朝日・沖縄タイムス、毎日・琉球新報、共同・沖タイム・琉新）

普天間基地の辺野古移設計画の断念を 玉城知事 首相に建議書

NHK2022年5月10日 18時36分

沖縄が本土に復帰して今月で50年となるのを前に、沖縄県の玉城知事が10日、岸田総理大臣と会談し、アメリカ軍普天間基地の名護市辺野古への移設計画を断念することなどを求める「建議書」を手渡しました。

会談で玉城知事は、50年前の本土復帰を前に当時の琉球政府がまとめた文書にならって、政府への要望を盛り込んだ「建議書」を手渡しました。



建議書では「復帰時、沖縄県と政府が共有した『沖縄を平和の島とする』という目標は、いまだ達成されていない」として、アメリカ軍普天間基地の名護市辺野古への移設計画の断念や、日米地位協定の抜本的な見直しなどを求めています。

岸田総理大臣は「政府としても建議書をしっかりと受け止め、アメリカ軍基地の負担軽減や県民所得の向上などに引き続き努力していきたい」と述べました。



玉城知事は、面会のあと記者団に対し「基地の負担軽減は沖縄の振興につながるということは間違いない。岸田総理には沖縄の思いを改めて受け止めていただけることを期待する」と述べました。官房長官「辺野古移設が唯一の解決策」

松野官房長官は午後の記者会見で、「日米同盟の抑止力の維持と危険性の除去を考えたとき、アメリカ軍普天間基地の辺野古移設が唯一の解決策で、引き続き、地元の理解を得る努力を続け、一日も早い全面返還の実現と基地負担の軽減を図るため、全力で取り組んでいく」と述べました。

また、日米地位協定の見直しについて、「大きな法的枠組みであり、政府は事案に応じて効果的、かつ機敏に対応できる最も適切な取り組みを通じ、一つ一つ具体的な問題に対応してきている。さまざまな意見があることは承知しているが、政府は今後も目に見える取り組みを積み上げていく」と述べました。

沖縄振興に向けた基本方針決定「強い沖縄経済を実現」 政府

NHK2022年5月10日 16時22分

政府は、沖縄の振興に向けた今後10年間の基本方針を決定しました。「強い沖縄経済を実現する」と明記し、観光産業の魅力をさらに高めるほか、デジタル技術を活用して新たな産業の創出を図るなどとしています。

10日に決定された基本方針では、沖縄県民一人当たりの所得が

依然として全国で最下位の水準にとどまり、自立的な発展に課題が残されていると指摘したうえで「事業者の生産性や『稼ぐ力』の向上を図り、強い沖縄経済を実現する」と明記しています。そのために、観光産業の魅力をさらに高めて競争力を強化するほか、デジタル技術の活用や脱炭素化などを通じて新たな産業の創出を図るとしています。

また、本島北部地域では特産品の開発や販路の拡大などによって雇用を創出し、ICTも活用した住民サービスの向上で移住や定住を促す環境を整えるとしています。

さらに子どもの貧困対策として、子どもの居場所の運営支援や保護者の雇用確保などに取り組むことも盛り込んでいます。

西銘沖縄北方相「沖縄の自立的発展と豊かな生活が実現するよう」西銘沖縄・北方担当大臣は記者会見で「基本方針では、沖縄振興の意義や方向、基本的な視点、このあと県が振興計画を策定する際の基本的な事項について定めている。引き続き沖縄の自立的発展と豊かな住民生活が実現するよう、沖縄振興に全力で取り組んでいく」と述べました。

沖縄本土復帰50年 基地問題 経済振興などの意識は NHK 世論調査

NHK2022年5月10日 17時31分



アメリカ統治下にあった沖縄が本土に復帰して5月15日で50年になります。これにあわせてNHKでは世論調査を行い、本土復帰や基地問題、それに経済の振興などについて質問しました。調査結果の主な内容です。

調査とは

調査の詳細です。

NHKはことし2月から3月にかけて沖縄県と全国の18歳以上のそれぞれ1800人を対象に郵送法で世論調査を行い

▽沖縄県では45.1%に当たる812人から

▽全国では61.9%に当たる1115人から

回答を得ました。

本土復帰の日を知っているか



沖縄が本土に復帰した日が5月15日であることを知っていたか聞きました（対象 沖縄県）。



「知っていた」が73%

「知らなかった」が27%でした。

復帰の評価

この50年をふりかえった時、本土復帰についてどのように思うか聞きました（対象 沖縄県）。



「とてもよかった」と答えた人が39%

「ある程度よかった」が45%

「あまりよくなかった」が12%

「まったくよくなかった」が2%でした。

米軍基地と日本の安全



復帰後も沖縄に残っているアメリカ軍の基地について、どう思うか聞きました。



沖縄では

「日本の安全にとって、必要だ」が11%

「日本の安全にとって、やむを得ない」が51%

「日本の安全にとって、必要ではない」が19%

「日本の安全にとって、かえって危険だ」が17%でした。

全国では

「必要だ」が12%

「やむを得ない」が68%

「必要ではない」が14%

「かえって危険だ」が5%でした。

沖縄の米軍基地の今後

沖縄にあるアメリカ軍基地について、どのように考えているか聞きました（対象 沖縄県）。



「全面撤去すべきだ」が16%

「本土並みに少なくすべきだ」が63%

「現状のままでよい」が18%

「もっと増やすべきだ」が1%でした。

基地の整理・縮小は

沖縄にあるアメリカ軍基地の整理・縮小はどうしたら進むか聞きました。



沖縄では

「アメリカに基地の整理・縮小を強く働きかける」が23%

「沖縄にあるアメリカ軍基地を本土に分散させる」が40%

「アメリカ軍に依存しなくても済むように自衛力を高める」が13%

「近隣諸国との緊張緩和に向けた外交努力を強化する」が20%

「その他」が3%でした。

これに対して全国では

「アメリカに基地の整理・縮小を強く働きかける」が26%

「沖縄にあるアメリカ軍基地を本土に分散させる」が14%

「アメリカ軍に依存しなくても済むように自衛力を高める」が26%

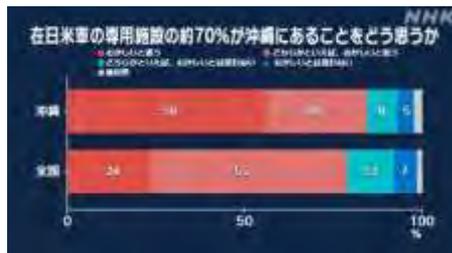
「近隣諸国との緊張緩和に向けた外交努力を強化する」が31%

「その他」が2%でした。

沖縄への米軍基地の集中



在日アメリカ軍の専用施設のうち、およそ70%が沖縄にあります。このことについてどう思うか聞きました。



沖縄では

「おかしいと思う」が56%

「どちらかといえば、おかしいと思う」が28%

「どちらかといえば、おかしいとは思わない」が8%

「おかしいとは思わない」が5%でした。

全国では

「おかしいと思う」が24%

「どちらかといえば、おかしいと思う」が55%

「どちらかといえば、おかしいとは思わない」が13%

「おかしいとは思わない」が7%でした。

事件・事故の不安

沖縄にアメリカ軍の基地があることによって、事件や事故に巻き込まれる不安をどの程度感じているか聞きました(対象 沖縄県)。



「非常に感じている」が38%
 「ある程度感じている」が44%
 「あまり感じていない」が14%
 「まったく感じていない」が2%でした。

日米地位協定



「日米地位協定」について見直す必要があると思うか、見直す必要はないと思うか聞きました。



沖縄では

「見直す必要がある」が82%
 「見直す必要はない」が2%
 「どちらともいえない」が14%でした。

全国では

「見直す必要がある」が69%
 「見直す必要はない」が3%
 「どちらともいえない」が26%でした。

名護市辺野古への移設の賛否



政府は沖縄のアメリカ軍普天間基地について、名護市辺野古への移設を進めています。このことについてどう思うか聞きました(対象 沖縄県)。



「賛成」が11%

「どちらかといえば、賛成」が24%

「どちらかといえば、反対」が29%

「反対」が34%でした。

沖縄への自衛隊配備

復帰後、沖縄には自衛隊が配備されています。このことについてどう思うか聞きました(対象 沖縄県)。



「日本の安全にとって、必要だ」と答えた人が37%

「日本の安全にとって、やむを得ない」と答えた人が47%

「日本の安全にとって、必要ではない」と答えた人が7%

「日本の安全にとって、かえって危険だ」と答えた人が6%でした。

南西諸島への自衛隊配備

また政府が中国の海洋進出に備えて新たに宮古島や石垣島などの南西諸島に自衛隊の配備を進めていることについて、どう思うか聞きました(対象 沖縄県)。



「日本の安全にとって、必要だ」が31%

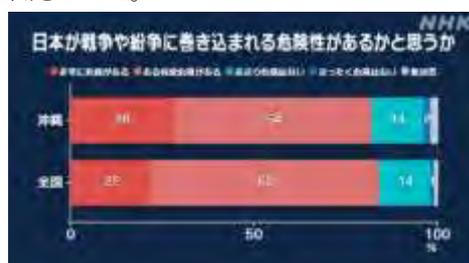
「日本の安全にとって、やむを得ない」が45%

「日本の安全にとって、必要ではない」が11%

「日本の安全にとって、かえって危険だ」が12%でした。

戦争・紛争に巻き込まれる危険性

現在の世界の情勢から考えて、日本が戦争や紛争に巻き込まれたり、他国から侵略を受けたりする危険性がどの程度あると思うか聞きました。



沖縄では

「非常に危険がある」が28%

「ある程度危険がある」が54%

「あまり危険はない」が14%

「まったく危険はない」が2%でした。

全国では

「非常に危険がある」が22%
 「ある程度危険がある」が62%
 「あまり危険はない」が14%
 「まったく危険はない」が1%でした。

基地と経済



沖縄の経済はアメリカ軍基地がなければ成り立たないと思うか、思わないか聞きました (対象 沖縄県)。



「そう思う」が11%
 「どちらかといえば、そう思う」が32%
 「どちらかといえば、そうは思わない」が30%
 「そうは思わない」が26%でした。

国の振興策の評価



国の振興策が沖縄の発展にどの程度役に立ったと思うか聞きました (対象 沖縄県)。



「非常に役に立った」が16%
 「ある程度役に立った」が63%
 「あまり役に立たなかった」が16%
 「まったく役に立たなかった」が2%でした。

開発か自然保護か

沖縄の今後について開発を優先すべきだと思うか、自然保護を優先すべきだと思うか聞きました (対象 沖縄県)。



「開発を優先すべきだ」が3%
 「どちらかといえば、開発を優先すべきだ」が20%
 「どちらかといえば、自然保護を優先すべきだ」が57%
 「自然保護を優先すべきだ」が18%でした。

在日米軍施設の約70%が沖縄 8割がおかしいと回答 NHK 世論調査

NHK2022年5月10日 6時45分

沖縄が本土に復帰してから、今月15日で50年になります。NHKの世論調査で、在日アメリカ軍の専用施設のうち、およそ70%が沖縄にあることについてどう思うか聞いたところ「おかしいと思う」と回答した割合が、沖縄では8割を超え、全国でもおよそ8割に上りました。

NHKは、沖縄が本土に復帰して50年になる、ことし2月から3月にかけて、沖縄県と全国の18歳以上の、それぞれ1800人を対象に郵送法で世論調査を行い、沖縄県では45.1%に当たる812人から、全国では61.9%に当たる1115人から回答を得ました。

世論調査では、在日アメリカ軍の専用施設のうち、およそ70%が沖縄にあることについてどう思うか聞いたところ

▽「おかしいと思う」が沖縄で56%、全国で24%
 ▽「どちらかといえば、おかしいと思う」が沖縄で28%、全国で55%

▽「どちらかといえば、おかしいとは思わない」が沖縄で8%、全国で13%
 ▽「おかしいとは思わない」が沖縄で5%、全国で7%でした。

「おかしいと思う」「どちらかといえば、おかしいと思う」を合わせると沖縄では8割を超え、全国でもおよそ8割に上りました。

復帰後も残る米軍基地「やむをえない」が沖縄で51% 全国は68%



一方、復帰後も、沖縄に残っているアメリカ軍の基地についてどう思うか聞いた質問です。

▽「日本の安全にとって、必要だ」が沖縄では11%、全国では12%。

▽「日本の安全にとって、やむをえない」が沖縄では51%、全国では68%。

▽「日本の安全にとって、必要ではない」が沖縄では19%、全国では14%。

▽「日本の安全にとって、かえって危険だ」が沖縄では17%、全国では5%でした。

調査結果について専門家は

今回の調査結果について、沖縄の近現代史が専門の大阪教育大学の櫻澤誠 准教授は「世界情勢の中で、戦争に巻き込まれたりするような可能性や危険性がどの程度あるかということについて、沖縄のほうが全国よりも敏感で割合が若干高まることと『基地が

あることがやむをえない』と感じる割合が高くなっていることが、おそらくリンクしているのだろう」と指摘しました。

そのうえで「沖縄にだけ基地が集中していることに対する違和感や整理縮小が進まないことに対する不信感はあるながらも、一方で、特にアジア地域における国家間の対立の中で、ある程度、基地があることについてはやむをえないのではないかという感覚もある。この30年ぐらいを見た中で、冷戦終結以降、徐々に緊張が高まっているという点で、調査結果は2022年、現時点での数字になっている」と分析しました。

米軍基地「今のままでよい」 沖縄19%、全国41% 朝日世論調査

朝日新聞デジタル磯田和昭 2022年5月10日 21時00分

沖縄の米軍基地、今後どうするのがよいか



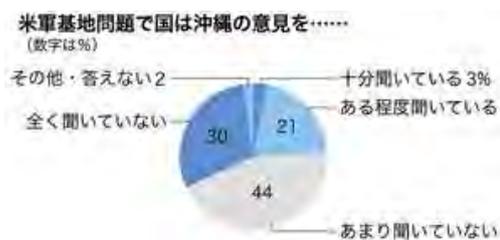
今後どうするのがよいか

沖縄の日本復帰から5月で50年になるのを前に、朝日新聞社は沖縄タイムス、琉球朝日放送と合同で3~4月、県民に世論調査(郵送)をした。在沖縄米軍基地をどうするのがよいか聞くと、「減らすのがよい」が61%、「今のままでよい」は19%だった。同時期の全国調査(郵送)では「減らすのがよい」が46%の一方で、「今のままでよい」が41%と沖縄より大幅に多い。基地が集中する沖縄と全国で、意識に大きなギャップがある。調査方法 沖縄県内の有権者から無作為に2千人を選んで調査票を送り、3~4月に調査した。有効回答は1218で、回収率は61%。全国調査は憲法が中心テーマで対象者3千人。有効回答は1892で、回収率は63%だった。

「沖縄には現在、在日米軍の…」
残り1003文字

沖縄のジレンマ、解消を 地位協定改定「求めるべきだ」9割

朝日新聞デジタル編集委員・佐藤武嗣 2022年5月10日 21時00分



中国の軍事的台頭による沖縄周辺での安全保障環境の悪化に懸念を抱く一方、沖縄の声に無視を決め込む日本政府に不満を募らせる――。今回の調査からは、そんな沖縄県民のジレンマといらだちがにじむ。基地問題では全国調査との共通質問で沖縄と本土の認識のずれも露呈したが、双方に共通するのは、政府の外交

努力への批判的な視線だ。

県民調査では、中国の軍事力…残り711文字

[okinawa復帰50年] 基地縮小要望 県民61% 全国46% 意識に差 県の課題 「経済」最多 タイムス・朝日・QAB調査

沖縄タイムス 2022年5月11日 05:00 有料

沖縄の日本復帰50年に合わせ、沖縄タイムスは朝日新聞社、琉球朝日放送(QAB)と共同で、3月から4月にかけて県内の有権者を対象に郵送で県民意識調査を実施した。沖縄に集中する米軍基地に関し「減らすのがよい」との回答が61%で、「全面的撤去」も15%だった。「今のままでよい」は19%だった。
残り761文字(全文:902文字)

現役世代は経済重視 経済38% 基地26%で続く 最重要課題

沖縄タイムス 2022年5月11日 05:00 有料

沖縄県で最も重要だと思う課題は、「経済振興」が38%で最も多く、「基地問題」の26%、「教育・福祉などの充実」19%と続いた。2017年調査では「基地問題」が33%、「経済振興」は19%だった。経済向上を相対的に重視する意識が鮮明になった。

残り279文字(全文:397文字)

国防意識 侵攻が影響 自衛隊「強化する」33% 10年前から増加 南西シフト 「よい」57% 「よくない」26% 政府の説明不十分 沖縄大教授・高良沙哉さん

沖縄タイムス 2022年5月11日 05:00 有料

沖縄に駐屯する自衛隊の今後については「強化する」が33%で10年前の調査の21%から増加した。
残り495文字(全文:540文字)

朝日新聞全国憲法郵送調査

沖縄タイムス 2022年5月11日 05:00 有料

◆日米安保条約をこれからも維持していくことに賛成ですか。反対ですか。賛成82▽反対10 ◆沖縄には現在、在日アメリカ軍の基地や施設の70%がおかれています。沖縄にあるアメリカ軍の基地や施設を、今後どうするのがよいと思いますか。

残り413文字(全文:520文字)

全質問と回答 県内

沖縄タイムス 2022年5月11日 05:00

(数字は%。小数点以下は四捨五入。質問文と回答は一部省略。特に断りがない限り、回答は選択肢から一つ選ぶ方式) ◆玉城デニー知事を支持しますか。支持しませんか。支持する62▽支持しない31 ◆玉城知事の経済政策をどの程度評価しますか。残り2097文字(全文:2206文字)

沖縄の意見を 「聞かず」74% 政府の姿勢

沖縄タイムス 2022年5月11日 05:00

米軍基地問題で、国が沖縄の意見をどの程度聞いていると思うか尋ねたところ、「聞いていない」との回答が「あまり」(44%)、

「まったく」(30%)を合わせて74%に達した。岸田内閣支持でもそのうち61%、自民支持層で51%が「聞いていない」としており、政権側に否定的な見方が目立った。
残り 278 文字 (全文: 416 文字)

新基地「反対」は54% 「普天間」移設

沖縄タイムス 2022年5月11日 05:00 有料

米軍普天間飛行場を返還するため、名護市辺野古に新基地を建設して移設することに「反対」は54%で、「賛成」が33%だった。2012年は「反対」66%、「賛成」21%。政府による埋め立て工事が進んでもなお、反対の声が根強い。
残り 321 文字 (全文: 429 文字)

【okinawa 復帰50年】基地負担の解消要求 県民意識調査 (2面と見開き)

沖縄タイムス 2022年5月11日 05:00

日本復帰50年に合わせ沖縄タイムス、朝日新聞社、琉球朝日放送(QAB)が実施した意識調査では、県民が生活で「経済」を重視している傾向が浮かび上がった。一方、過重な基地負担を問題視し、整理・縮小を求める声は根強く、名護市辺野古の新基地建設も反対が上回った。
残り 719 文字 (全文: 844 文字)

基地負担感 本土と差 我部政明 (琉球大名誉教授)

沖縄タイムス 2022年5月11日 05:00 有料

今後の在沖米軍基地をどうするべきかとの問いで沖縄と全国で大きな差が出ているのは、日常的な基地の負担感の違いだろう。基地から離れた本土では周辺がきなくさいから減らす必要はない程度と考えではないか。基地問題に対する切実さが大きく異なる。
残り 431 文字 (全文: 545 文字)

米軍基地集中、沖縄6割「不平等」 毎日新聞・琉球新報世論調査

毎日新聞 2022/5/10 08:00 (最終更新 5/10 08:48)



沖縄県の米軍嘉手納基地=2021年

11月20日、本社機「希望」から

沖縄県の日本本土復帰から15日で50年になるのを前に、毎日新聞と琉球新報は7日、沖縄の現状や基地問題に関する世論調査(インターネット)を全国と沖縄県で実施した。米軍専用施設面積の7割が沖縄に集中している現状を「不平等だと思う」とする回答は沖縄では61%で、「やむを得ない」の30%を大きく上回った。一方、全国は「不平等」が40%、「やむを得ない」が35%で、沖縄と全国で認識に隔たりがあった。本土復帰の評価は「良かった」「どちらかといえば良かった」とした回答が沖縄92%、全国95%で、肯定的な意見が圧倒的だった。



沖縄県に在日米軍基地の7割以上が集中する現状は?

毎日新聞と琉球新報は復帰30年を迎えた2002年と復帰40年の12年にも同様の世論調査を実施した。調査方法が異なるため単純に比較できないが、12年の前回調査でも、沖縄への基地集中を「不平等」とする回答は沖縄で69%、全国で33%と大きな差があった。今回も「不平等」とする割合は沖縄が全国に比べ21ポイント高く、沖縄の基地負担についての捉え方は地元と全国で依然として異なる。

本土復帰の評価は「良かった」が沖縄65%、全国80%、「どちらかといえば良かった」は沖縄27%、全国15%。否定的評価はわずかだった。

沖縄県宜野湾市の中心部にあり、危険性が指摘されている米軍普天間飛行場について、政府は名護市辺野古沿岸部に県内移設する計画だが、「計画に沿って進めるべきだ」は沖縄36%、全国37%で、4割弱にとどまった。「移設せずに撤去すべきだ」「県外に移設すべきだ」「国外に移設すべきだ」とした回答を合計すると、沖縄54%、全国42%で、双方とも政府の方針を支持する意見を上回った。

一方、12年調査は辺野古移設計画を「進めるべきだ」が沖縄11%、全国28%で、今回の調査では計画への支持に増加傾向も見える。政府が辺野古沿岸部の埋め立てを進める中で、沖縄県民の考えにも変化がうかがえる。

米軍基地の運用や米軍関係者の権利などを定める日米地位協定については、「抜本的に改定すべきだ」が沖縄71%、全国55%と多数を占めた。地位協定は1960年の締結以来、一度も改定されていない。沖縄県は改定を求めているが、政府は運用の改善で対応するとしている。政府の姿勢を支持する回答は沖縄13%、全国15%にとどまった。

「日米安全保障条約が日本の平和と安全に役立っているか」という質問では「役に立っている」が沖縄42%、全国49%。沖縄では「どちらともいえない」とする回答も44%あった。中国の軍事力強化や海洋進出には「不安に思う」が沖縄、全国ともに91%だった。【中里顕、吉住遊】

「守ってほしいが戦場は嫌」

沖縄国際大の佐藤学教授(政治学)の話 9割の人が中国を脅威に感じる中で、沖縄に集中している米軍基地について全国と沖縄の間で認識に差があるのは、全国には沖縄の米軍に日本を守ってほしいと考えている人が多く、沖縄では自分たちを守ってほしいのと同時に、戦場になるのは嫌だと考える人も多いからだろう。

毎日新聞・琉球新報合同世論調査 「米軍基地集中は不平等」 沖縄61%、全国40%

毎日新聞 2022/5/10 東京朝刊

沖縄県の日本本土復帰から15日で50年になるのを前に、毎

日新聞と琉球新報は7日、沖縄の現状や基地問題に関する世論調査（インターネット）を全国と沖縄県で実施した。米軍専用施設面積の7割が沖縄に集中している現状を「不平等だと思う」とする回答は沖縄では61%で、「やむを得ない」の30%を大きく上回った。一方、全国は「不平等」が40%、「やむを得ない」が35%で、沖縄と全国で認識に隔たりがあった。本土復帰の評価は「良かった」「どちらかといえば良かった」とした回答が沖縄92%、全国95%で、肯定的な意見が圧倒的だった。

毎日新聞と琉球新報は復帰30年を迎えた2002年と復帰40年の12年にも同様の世論調査を実施した。調査方法が異なるため単純比較できないが、12年の前回調査でも、沖縄への基地集中を「不平等」とする回答は沖縄で69%、全国で33%と大差があった。今回も「不平等」とする割合は沖縄が全国に比べ21ポイント高く、沖縄の基地負担の捉え方は地元と全国で異なる。本土復帰の評価は「良かった」が沖縄65%、全国80%…残り647文字（全文1105文字）

毎日新聞・琉球新報合同世論調査 質問と回答

毎日新聞 2022/5/10 東京朝刊

全国 沖縄

◆沖縄は、5月15日で本土復帰50年を迎えます。沖縄が本土に復帰して良かったと思いますか。

良かった 80 65

どちらかといえば良かった 15 27

どちらかといえば悪かった 1 3

悪かった 0 1

答えたくない 4 3

残り1619文字（全文1809文字）

基地集中は「不平等」沖縄県内61% 全国40%と落差 新報・毎日世論調査

琉球新報 2022年5月10日 08:00



沖縄の日本復帰50年の節目を前に、琉球新報社は毎日新聞社と合同で世論調査を実施し、県内と全国で復帰の評価や基地問題への意識を探った。在日米軍専用施設の7割が沖縄に集中していることに対して「不平等」と回答したのは、県内調査で61%に達したが、全国調査では40%にとどまった。全国調査で、沖縄の米軍基地が自分の住んでいる地域へ移設されることに52%が反対し、賛成は23%だった。過重な基地負担への温度差や、県外の認識不足が改めて浮き彫りとなった。

日本復帰に対する評価について、県内は「良かった」「どちらかといえば良かった」を合わせると92%に上り、復帰40年の12年調査比で12ポイント上昇。復帰30年、35年調査と比較しても10ポイント以上上回り、調査を開始して以降、過去最高となった。全国調査は「良かった」が80%、「どちらかといえば

良かった」が15%だった。

米軍普天間飛行場の移設に伴う名護市辺野古新基地建設を巡り、県内では54%が移設せずに撤去、県外、国外移設を求めるなど現行計画に反対し、政府の計画に沿って新基地建設を進めるべきだとの回答は36%だった。全国では計画への反対が42%、推進を求める回答は37%と拮抗（きっこう）し、県内と全国調査では意識に差がみられた。

電話で実施した前回調査（12年）と調査手法に違いがあるものの、前回は辺野古新基地建設への反対意見は9割近くに上っていた。政府が新基地建設を強行する中、県民意識に変化が出ていることも示された。

日米地位協定に関し、県民調査では71%が抜本的改定を求め、「改定はせず運用改善で対応すべきだ」の13%を大きく上回った。全国調査は、抜本的改定が55%、運用改善は15%で、基地が集中する沖縄と、全国では地位協定の捉え方に差異が出た。

（池田哲平）



琉球新報と毎日新聞が実施した復帰50年の合同世論調査では、県内・全国とも復帰を高評価したが、沖縄の米軍基地負担については意識の差が表れた。在日米軍基地の沖縄への集中を「不平等」とする意見は、県内では6割に達したが、全国は4割にとどまる。さらに県内・全国とも日米安全保障体制をおおむね評価し、中国の軍事力強化を不安視するが、全国の過半数が沖縄の米軍基地が自らの住む地域には来てほしくないと回答した。復帰50年が経過しながらも、沖縄への「基地の押し付け」を是認する姿勢が浮かび上がった。

政府が中国や台湾に近い沖縄への自衛隊配備を強化していることに対して、県内調査では「強化すべきだ」が55%に上り、「強化すべきでない」の16%を39ポイント上回った。ウクライナ情勢を受けて台湾有事への懸念が高まりもあり、専守防衛の組織として自衛隊の配備を過半数が容認した形となった。…この記事は会員限定です。

日米安保、沖縄42%、全国49%が評価 男性が肯定的 新報・毎日世論調査

琉球新報 2022年5月10日 14:24



琉球新報と毎日新聞が実施した復帰50年の合同世論調査では、県内・全国とも復帰を高評価したが、沖縄の米軍基地負担については意識の差が表れた。在日米軍基地の沖縄への集中を「不平等」とする意見は、県内では6割に達したが、全国は4割にとどまる。さらに県内・全国とも日米安全保障体制をおおむね評価し、

中国の軍事力強化を不安視するが、全国の過半数が沖縄の米軍基地が自らの住む地域には来てほしくないと回答した。復帰 50 年が経過しながらも、沖縄への「基地の押し付け」を是認する姿勢が浮かび上がった。

米軍の日本駐留を定めた日米安保条約が日本の平和と安全に役立っているかとの質問で、県内調査では「役に立っている」が 42%と「役に立っていない」の 11%を上回った。全国調査でも「役に立っている」が 49%と「役に立っていない」の 7%を大きく上回り、県内と全国の間で日米安保に対する意識の差が小さく、いずれも肯定的な意識が高い結果が示された。...

この記事は会員限定です。

普天間飛行場「撤去、県外移設」県内は 54%、全国は 42% 「辺野古推進」は県内 36%、全国 37% 新報・毎日世論調査
琉球新報 2022 年 5 月 10 日 11:01



琉球新報と毎日新聞が実施した復帰 50 年の合同世論調査では、県内・全国とも復帰を高評価したが、沖縄の米軍基地負担については意識の差が表れた。在日米軍基地の沖縄への集中を「不平等」だとする意見は、県内では 6 割に達したが、全国は 4 割にとどまる。さらに県内・全国とも日米安全保障体制をおおむね評価し、中国の軍事力強化を不安視するが、全国の過半数が沖縄の米軍基地が自らの住む地域には来てほしくないと回答した。復帰 50 年が経過しながらも、沖縄への「基地の押し付け」を是認する姿勢が浮かび上がった。...

この記事は会員限定です。

琉球新報・毎日新聞合同世論調査 県内の質問と回答
琉球新報 2022 年 5 月 10 日 10:48



琉球新報と毎日新聞が実施した復帰 50 年の合同世論調査では、県内・全国とも復帰を高評価したが、沖縄の米軍基地負担については意識の差が表れた。在日米軍基地の沖縄への集中を「不平等」だとする意見は、県内では 6 割に達したが、全国は 4 割にとどまる。さらに県内・全国とも日米安全保障体制をおおむね評価し、中国の軍事力強化を不安視するが、全国の過半数が沖縄の米軍基地が自らの住む地域には来てほしくないと回答した。復帰 50 年が経過しながらも、沖縄への「基地の押し付け」を是認する姿勢が浮かび上がった。...

この記事は会員限定です。

沖縄の基地負担「不平等」79% 復帰 50 年で全国世論調査

2022/5/5 07:02 (JST)5/5 07:17 (JST)updated 共同通信社



米軍普天間飛行場の移設先、沖縄県名護市辺

野古沿岸部＝2 月

共同通信社は 4 日、沖縄の日本復帰 50 年となる 15 日を前に、全国郵送世論調査の結果をまとめた。沖縄県の基地負担が他の都道府県と比べ「不平等」と回答した人は「どちらかといえば」を含め計 79%に上った。

米軍基地の一部を県外で引き取るべきだとの意見に「賛成」が計 58%だったが、自分の住む地域への移設は「反対」が計 69%を占めた。沖縄の過重な基地負担を認識しながらも、危険を伴う施設を地元で受け入れる解決策には抵抗を抱く国民意識が浮き彫りになった。

調査は 3～4 月、18 歳以上の男女 3 千人を対象に実施した。

沖縄の基地負担「不平等」と感じる人 79% 地元受け入れは 69%反対 復帰 50 年で全国世論調査

沖縄タイムス 2022 年 5 月 5 日 08:58

共同通信社は 4 日、沖縄の日本復帰 50 年となる 15 日を前に、全国郵送世論調査の結果をまとめた。沖縄県の基地負担が他の都道府県と比べ「不平等」と回答した人は「どちらかといえば」を含め計 79%に上った。

米軍基地の一部を県外で引き取るべきだとの意見に「賛成」が計 58%だったが、自分の住む地域への移設は「反対」が計 69%を占めた。沖縄の過重な基地負担を認識しながらも、危険を伴う施設を地元で受け入れる解決策には抵抗を抱く国民意識が浮き彫りになった。

在日米軍専用施設の約 7 割が沖縄県に集中する現状に、米軍基地を「大きく減らすべきだ」が...

残り 478 文字 (全文 : 898 文字)

【中国船の尖閣侵入】「危機感ある」91% 【中国への親しみ】「感じない」88% 全国世論調査

沖縄タイムス 2022 年 5 月 5 日 08:36

尖閣諸島周辺の日本領海への中国公船侵入に危機感のある人は、全国世論調査で「大いに」と「ある程度」を合わせ計 91%に達した。中国の活発な動きに加え、調査期間中はロシアのウクライナ侵攻も既に始まっており、領海や領土への危機意識が全国的に高まった可能性もある。

ブロック別で最も危機感が高かったのは北陸の計 98%。最も低い甲信越と四国でも...

残り 293 文字 (全文 : 496 文字)

【米軍基地 負担軽減】高年層ほど沖縄の基地集中を問題視 全国世論調査

沖縄タイムス 2022 年 5 月 5 日 08:31

全国世論調査では、沖縄県の基地負担軽減を求める民意が示され、年層が高いほど傾向は強かった。多くの住民が犠牲になった沖縄戦を含む太平洋戦争に近い世代ほど、復帰後も続く米軍基地

集中を問題視。経済格差の認識でも世代差が出た。

沖縄県の米軍基地を「大きく減らすべきだ」と答えた割合は、高年層（60代以上）が56%と最も高く、...

残り 449 文字（全文：644 文字）

【全国と沖縄の回答比較】基地負担 県民に切実さ 経済格差 捉え方に違い 復帰 50 年共同通信世論調査

沖縄タイムス 2022 年 5 月 5 日 08:28

共同通信社は全国調査と同時期に、沖縄県の有権者だけを対象にした世論調査を実施し、同じ質問を設けて意識の違いを探った。沖縄の重い基地負担を巡る回答の比較を通じて、「基地の島」ならではの県民の切実さがにじんだ。経済格差の捉え方の違いも際立った。

「沖縄の米軍基地の一部を、他の都道府県で引き取るべきだ」という意見があります。あなたは、どう思いますか」。進まない基地の整理縮小に提唱された「基地引き取り論」を尋ねた。...

残り 1005 文字（全文：1246 文字）

沖縄の基地負担「不平等」と感じる人 79% 地元受け入れは 69%反対 復帰 50 年で全国世論調査

沖縄タイムス 2022 年 5 月 5 日 08:58

共同通信社は 4 日、沖縄の日本復帰 50 年となる 15 日を前に、全国郵送世論調査の結果をまとめた。沖縄県の基地負担が他の都道府県と比べ「不平等」と回答した人は「どちらかといえば」を含め計 79%に上った。

米軍基地の一部を県外で引き取るべきだとの意見に「賛成」が計 58%だったが、自分の住む地域への移設は「反対」が計 69%を占めた。沖縄の過重な基地負担を認識しながらも、危険を伴う施設を地元で受け入れる解決策には抵抗を抱く国民意識が浮き彫りになった。

在日米軍専用施設の約 7 割が沖縄県に集中する現状に、米軍基地を「大きく減らすべきだ」が...

残り 478 文字（全文：898 文字）

【中国船の尖閣侵入】「危機感ある」91% 【中国への親しみ】「感じない」88% 全国世論調査

沖縄タイムス 2022 年 5 月 5 日 08:36

尖閣諸島周辺の日本領海への中国公船侵入に危機感のある人は、全国世論調査で「大いに」と「ある程度」を合わせ計 91%に達した。中国の活発な動きに加え、調査期間中はロシアのウクライナ侵攻も既に始まっており、領海や領土への危機意識が全国的に高まった可能性もある。

ブロック別で最も危機感が高かったのは北陸の計 98%。最も低い甲信越と四国でも...

残り 293 文字（全文：496 文字）

【全国と沖縄の回答比較】基地負担 県民に切実さ 経済格差 捉え方に違い 復帰 50 年共同通信世論調査

沖縄タイムス 2022 年 5 月 5 日 08:28

共同通信社は全国調査と同時期に、沖縄県の有権者だけを対象にした世論調査を実施し、同じ質問を設けて意識の違いを探った。沖縄の重い基地負担を巡る回答の比較を通じて、「基地の島」な

らではの県民の切実さがにじんだ。経済格差の捉え方の違いも際立った。

「沖縄の米軍基地の一部を、他の都道府県で引き取るべきだ」という意見があります。あなたは、どう思いますか」。進まない基地の整理縮小に提唱された「基地引き取り論」を尋ねた。...

残り 1005 文字（全文：1246 文字）

県民の不満伝わらず 経済格差を巡る認識の違い 衝撃的 復帰 50 年全国世論調査 熊本博之・明星大教授

沖縄タイムス 2022 年 5 月 5 日 08:47

全国世論調査では、沖縄県の米軍基地負担を不平等だと感じる人は 79%に上り、大幅削減を求める声も多い。しかし、具体的に解決するとなると人ごとになってしまう「総論賛成、各論反対」の意識が表れた。

自分の住む地域への基地移設で反対が大きく上回ったのは、危険でコントロールできないと思うからだろう。沖縄県民もそれは同じだ。

県民調査と比べると、経済格差を巡る認識の違いが顕著で衝撃的だ。...

残り 415 文字（全文：652 文字）

【全国と沖縄の回答比較】基地負担 県民に切実さ 経済格差 捉え方に違い 復帰 50 年共同通信世論調査

沖縄タイムス 2022 年 5 月 5 日 08:28

共同通信社は全国調査と同時期に、沖縄県の有権者だけを対象にした世論調査を実施し、同じ質問を設けて意識の違いを探った。沖縄の重い基地負担を巡る回答の比較を通じて、「基地の島」ならではの県民の切実さがにじんだ。経済格差の捉え方の違いも際立った。

「沖縄の米軍基地の一部を、他の都道府県で引き取るべきだ」という意見があります。あなたは、どう思いますか」。進まない基地の整理縮小に提唱された「基地引き取り論」を尋ねた。...

残り 1005 文字（全文：1246 文字）

沖縄の基地負担「不平等」と感じる人 79% 地元受け入れは 69%反対 復帰 50 年で全国世論調査

沖縄タイムス 2022 年 5 月 5 日 08:58

共同通信社は 4 日、沖縄の日本復帰 50 年となる 15 日を前に、全国郵送世論調査の結果をまとめた。沖縄県の基地負担が他の都道府県と比べ「不平等」と回答した人は「どちらかといえば」を含め計 79%に上った。

米軍基地の一部を県外で引き取るべきだとの意見に「賛成」が計 58%だったが、自分の住む地域への移設は「反対」が計 69%を占めた。沖縄の過重な基地負担を認識しながらも、危険を伴う施設を地元で受け入れる解決策には抵抗を抱く国民意識が浮き彫りになった。

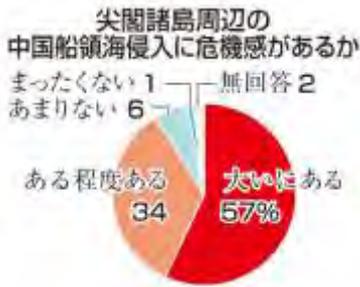
在日米軍専用施設の約 7 割が沖縄県に集中する現状に、米軍基地を「大きく減らすべきだ」が...

残り 478 文字（全文：898 文字）

尖閣諸島に中国船、危機感あると答えた人の割合は？<沖縄復

帰 50 年・全国世論調査>

琉球新報 2022 年 5 月 5 日 13:42



「基地のない平和な島」を望み日本に復帰した沖縄。半世紀を経ても米軍施設の集中は解消されず、経済格差も影を落とす。世論調査の結果を見ると、願いが十分に届いているとはいえない。

尖閣諸島周辺の日本領海への中国公船侵入に危機感のある人は、全国世論調査で「大いに」と「ある程度」を合わせ計 91% に達した。中国の活発な動きに加え、調査期間中はロシアのウクライナ侵攻も既に始まっており、領海や領土への危機意識が全国的に高まった可能性もある。

...
この記事は会員限定です。

沖縄の基地「大きく減らすべき」答えた割合の多い年代は...<沖縄復帰 50 年・全国世論調査>

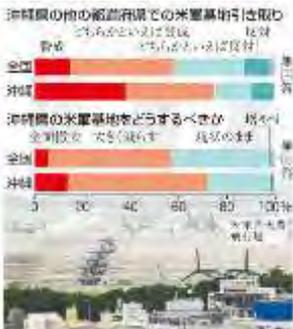
琉球新報 2022 年 5 月 5 日 13:38



「基地のない平和な島」を望み日本に復帰した沖縄。半世紀を経ても米軍施設の集中は解消されず、経済格差も影を落とす。世論調査の結果を見ると、願いが十分に届いているとはいえない。

全国世論調査では、沖縄県の基地負担軽減を求める民意が示され、年齢が高いほど傾向は強かった。多くの住民が犠牲になった沖縄戦を含む太平洋戦争に近い世代ほど、復帰後も続く米軍基地集中を問題視。経済格差の認識でも世代差が出た。

...
この記事は会員限定です。



「基地のない平和な島」を望み日本に復帰した沖縄。半世紀を経ても米軍施設の集中は解消されず、経済格差も影を落とす。世論調査の結果を見ると、願いが十分に届いているとはいえない。

...
この記事は会員限定です。

沖縄の基地負担は不平等？他の都道府県の回答は...復帰 50 年で全国世論調査 共同通信

琉球新報 2022 年 5 月 5 日 13:15



共同通信社は 4 日、沖縄の日本復帰 50 年となる 15 日を前に、全国郵送世論調査の結果をまとめた。沖縄県の基地負担が他の都道府県と比べ「不平等」と回答した人は「どちらかといえば」を含め計 79% に上った。米軍基地の一部を県外で引き取るべきだとの意見に「賛成」が計 58% だったが、自分の住む地域への移設は「反対」が計 69% を占めた。沖縄の過重な基地負担を認識しながらも、危険を伴う施設を地元で受け入れる解決策には抵抗を抱く国民意識が浮き彫りになった。

...
この記事は会員限定です。

【識者談話】沖縄の不平等、全国調査から見えた県民との意識のずれ 熊本博之・明星大教授

琉球新報 2022 年 5 月 5 日 13:59



全国世論調査では、沖縄県の米軍基地負担を不平等だと感じる人は 79% に上り、大幅削減を求める声も多い。しかし、具体的に解決するとすると人ごとになってしまう「総論賛成、各論反対」の意識が表れた。

自分の住む地域への基地移設で反対が大きく上回ったのは、危険でコントロールできないと思うからだろう。沖縄県民もそれは同じだ。

県民調査と比べると、経済格差を巡る認識の違いが顕著で衝撃的だ。県...

この記事は会員限定です。

<沖縄復帰 50 年・全国世論調査> 調査の方法と結果の詳細

琉球新報 2022 年 5 月 5 日 13:32



(数字は%)

【問1】 あなたは、沖縄県に対してどのようなイメージを持っていますか。最も強いものを選んでください。

...
この記事は会員限定です。

WEB 特集「はだしのゲン」作者が描いた沖縄 NHK2022年5月10日 18時01分



50年以上前、ある漫画家が、アメリカの統治下におかれていた沖縄に向かった。のちに「はだしのゲン」の作者として知られるようになる中沢啓治さんだ。そこで目の当たりにした現実を、漫画で表現していたことはほとんど知られていない。

5月で本土復帰から50年となる沖縄。復帰前の沖縄で中沢さんは何を見て、何を伝えようとしたのか。

(佐賀放送局記者 国枝拓)
本土復帰前の沖縄を舞台に

漫画の舞台は、本土復帰4年前の1968年の那覇市。沖縄がアメリカ軍の出撃拠点にもなった、ベトナム戦争のまっただ中だ。



主人公は基地とともにある暮らしが当たり前の環境に育った青年「三郎」。

三郎は、自宅近くで起きたB52爆撃機の墜落事故や、兵士の飲酒運転による母の死などを経験。戦後の沖縄が抱える不条理に怒りを燃やし、基地ぬきの本土復帰運動に身を投じていく。登場人物たちの感情がほとぼしる描写は、戦争や原爆への怒りをエネルギーにしている「はだしのゲン」そのものだ。



漫画はハッピーエンドではない。

最後のカットは、基地のない沖縄を望んで声を上げる住民たちの上を、黒煙を吹きながら悠然と飛んでいくB52が描かれ、読む者をやるせない気持ちにさせる。



「ジャンプ」連載の異色作



広島出身の漫画家で、被爆した経験を持つ中沢啓治さん。代表作「はだしのゲン」をはじめ、戦争と平和をテーマに数々の作品を残してきた。その中沢さんが、沖縄の基地問題を真正面から描いた唯一の作品が、この「オキナワ」だ。作品は本土復帰2年前の1970年に「週刊少年ジャンプ」に7回にわたって連載された。



当時のジャンプの表紙には“番長マンガ”の先駆けとなった本宮ひろ志さんの「男一匹ガキ大将」や、過激な表現が物議をかもした永井豪さんのギャグ漫画「ハレンチ学園」のイラストが目を引く。水木しげるさんや赤塚不二夫さんら人気漫画家の作品も、ずらりと並んでいる。

そんな中で「オキナワ」はひととき異彩を放っている。それが売りでもあったのだろう。キャッチコピーには「野心作」「異色作」などの文字がおどっている。

本土と沖縄との間に、大きな隔たりがあった時代。本土の読者は漫画を、沖縄の現実として驚きをもって受け止めていたようだ。



“そこに書かれてある事々ー沖縄の現状ーは本当にあの様なのでしょうか

私にはどうしても信じられないからです”

“ぼくが最近見たジャンプに「オキナワ」がのっていたB52がたえまなく飛んでいておちついて生活できない同じ日本人なのにどうしてこんなに違うんだろう”

(1971 年出版の単行本に掲載された読者の声)

一方、沖縄の読者からは、2 年後に控えた返還のあり方に疑問を投げかける声も寄せられている。

「前略、沖縄出身の一青年です。

漫画を通して、沖縄の現実を訴えるという中沢先生の意気込みを期待するものです

B52 の昼夜を問わずのベトナム発進など―果たして 72 年返還が、安保条約とからみ、真の祖国復帰であるかどうか疑問です”

(1971 年出版の単行本に掲載された読者の声)

現地取材も一時は漫画化を断念

漫画の物語は、中沢さんが沖縄で実際に見聞きしたものがベースとなっている。執筆のため、本土復帰前の沖縄を訪れているのだ。事前に沖縄に関する本を読みあさってひとつおりの知識をつけ、外国への旅行に必要なビザの取得も済ませて、那覇空港に降り立った。

中沢さんの自伝には、そこでアメリカ軍基地を目の当たりにした時の衝撃が、赤裸々につづられている。



嘉手納基地の軍用車両

(1968 年)

「道路の両側は基地の金網が果てしなく続き、ベトナムに向かう最新鋭機が飛び立ち、港は艦船が埋めていた。沿道は兵器の展示場であった

まったく想像を絶する米軍基地の巨大さには驚き呆れた。それはまさに、基地のなかの一点に沖縄市民が生活しているようだった」取材中に遭遇した出来事や、住民たちの暮らしぶりは「オキナワ」を創作する上で、重要な手がかりとなっていく。



嘉手納基地を飛び立つ

B52 爆撃機 (1968 年)

「嘉手納基地で B52 の飛び立つ写真を撮ろうとカメラを構えると、パトロールカーが赤いライトを点滅させ、警備員がカービン銃を構えて追いかけてきた。改めて、この沖縄はアメリカなんだと確認した」

「(基地との境界の) 金網ギリギリまで土地を耕し作物を植えている農民。ものすごい爆音の下で勉強している子どもたちこの沖縄は、いま戦場としてさらされ、一触即発で沖縄本島が一瞬にして吹き飛んでしまうのではないかと身震いした」

(教育史料出版会『はだしのゲン』自伝 より)

自伝には、本土に戻ったあとに思い悩んだことも記されている。滞在中には沖縄戦の戦跡も訪ねて回っていて、自身の被爆体験が

よみがえり、息苦しくなったというのだ。

「沖縄の問題はあまりにも大きくて、一漫画家が扱えるテーマではない」と、一時は漫画化を断念。編集者の説得でなんとかペンを執り「眼で見たことを素直に描くしかない」と思い直したと振り返っている。

被爆の痛み＝戦場としての沖縄

中沢さんはなぜ、そんな思いをしてまで沖縄にフォーカスしたのか。

当時の彼をよく知る人がいる。漫画評論家の石子順さん (86)。30 代のころから交流があり、「はだしのゲン」の単行本出版にも携わった。「オキナワ」の単行本化にあたっては、書評も担当している。



漫画評論家 石子順さん

「オキナワ」について取材を受けるのは、今回が初めてだという石子さん。数十年ぶりに手にした作品を、じっくりと見つめながら語った。

「懐かしさよりも、むしろ痛みを感じますね。中沢の当時の胸の内がひしひしと伝わってきて、今読んでも痛いです」



石子さんによると、中沢さんは昭和 40 年代の半ばごろ、のちの「ゲン」につながる戦争漫画をどう描くか模索していたという。自分はなぜ被爆したのか、ひいては戦争とは何かという大きなテーマを突き詰めた結果、基地に囲まれた、戦争と隣り合わせの実態を見ずにはいられないと、その足が自然と沖縄に向かったという。

漫画評論家 石子順さん (86)

「日本から沖縄がもぎ取られている痛み。その痛みは被爆した痛みと重なっている。“異国の中の祖国”で生きている沖縄の人たちの痛みを重ねていくということの中沢はやりたかった。中沢以外の漫画家が沖縄の問題をテーマにしても被爆の経験と重ね合わせて描くこと、二重、三重に痛みを掘り下げるようなことはできなかったんじゃないかと思う。自身を見つめ、それをやり切ったのが彼のすごいところで、中沢だからできた漫画だと思います」



中沢さんを近くで見てきた石子さんは、苦しみながら「オキナワ」を描ききった経験が、その後の「ゲン」の執筆につながったとみている。

今も放たれるメッセージ

漫画を、自身の体験と重ねて読んだという人もいる。

本土復帰間もない沖縄で学生時代を過ごした佐賀県唐津市の西山実さん（64）。特に印象深いというのが、漫画の中で何度も描かれる B52 だ。



西山さんが進学した頃にはベトナム戦争は終わっていたが、グアムから一時的に沖縄に移動してきた機体を目撃したことがあるという。

西山実さん

「国道 58 号線を車で走っていると嘉手納基地の壁の内側に真っ黒い大きな尾翼がそびえ立っているのが見えたんです。このとてつもなくでっかい飛行機は何だと地元の友人に聞くと『これがあの B52 だ』と。漫画では B52 が不気味に描かれていますが、そのときの私の驚きの感覚と同じです」

そして、基地を離着陸する軍用機の騒音。漫画を読むと、当時の記憶がはっきりよみがえってきたという。



西山実さん

「漫画の中で、音楽の授業中に小学校の上を B52 が飛んでいき、その音で子どもたちの歌声やピアノの音がかき消されて聞こえなくなってしまうシーンがあります。私が普天間飛行場近くの小学校で教育実習をしたとき、近くを飛ぶヘリコプターのバリバリという音でなんども授業が中断しました。ヘリコプターはホバリングしますし、何機も一緒になって飛ぶので、中断した時間は漫画よりも長かったかもしれません。その間は、私がいくら大きな声を出しても子どもたちには届きませんでした」



教育実習に参加する西山実さん

西山実さん

大学を卒業してからも何度も沖縄を訪ね、伝統楽器・三線（さん

しん）の愛好会で活動が続けるなど、沖縄と関わりを持ち続けてきた西山さん。「オキナワ」を読み、在日アメリカ軍の施設のおよそ 70% が集中し、漫画が描かれた当時と大きく変わっていない沖縄の状況に、あらためて気付かされたという。そして、本土復帰 50 年のいま、漫画を通してその実情を社会に問いかけた中沢さんの思いをくみ取ろうとしている。



西山実さん

「今に続く沖縄の歩みを知ることができる貴重な作品だと思います。今もあの小さな島に広大な基地が広がっている。そんな現実を知ることから始めてほしい、沖縄の人がどういことを願っているのか、思っているのかを感じてほしい。中沢さんは 50 年前もこのことを知ってほしかった。その思いは今も漫画の中で生きています」



漫画はいまも昔も、基地と隣り合わせの沖縄の現実を発信し続けている。



佐賀放送局記者国枝拓

新聞記者を経て平成 21 年入局。松山局を経て、平成 26 年から 5 年間、科学文化部で福島第一原発事故の検証を中心とした原子力取材のほか、将棋・音楽・歴史などの文化取材を担当。現在は佐賀局で文化、原発などジャンルを超えた取材を担当。

News Up アメリカだった沖縄

NHK2 年 5 月 9 日 17 時 46 分



まもなくやってくる 5 月 15 日は何の日かご存じでしょうか。今から 50 年前、1972 年のこの日。沖縄が日本に返還されました。

沖縄にとっては日本への復帰です。

太平洋戦争の激戦地となった沖縄は、戦後 27 年にわたってアメ

リカの統治下にありました。日本国憲法が公布されたとき、東京タワーが完成したとき、東海道新幹線が開業したとき、沖縄はどんな姿だったのか。

当時を生きた人たちの、「アメリカだった沖縄」の記憶です。

(沖縄局 安藤雅斗 西林明秀)

沖縄のニューヨークレストラン

「沖縄県民は飲み会のあと、シメにステーキを食べる」

沖縄以外の都道府県の人が聞いたら、ちょっと信じがたいかもしれません。

みんながみんなそうというわけではありませんが、確かにそういう文化はあります。

熱々の鉄板に乗せられた赤身のステーキは、沖縄の食文化の1つとして親しまれてきました。

その始まりは、沖縄がアメリカだった時代にさかのぼります。



発祥とも言われる店がコザ（今の沖縄市）で1951年に創業した「ニューヨークレストラン」。

創業したのは奄美群島出身の故・元山嘉志富さん。

アメリカ統治下の沖縄には、米軍相手にひと山当てようと、沖縄の外からも大勢の人が集まり、基地の周辺は活況を呈していました。

元山さんもそうした1人で、故郷から親族や若手を呼び寄せ、従業員として雇いました。



左側の白髪の男性が

元山さん

「ニューヨークレストラン」の経営は、すぐに軌道に乗りました。元山さんに呼び寄せられた1人が、おいの徳富清次さん（77）。2008年まで「ニューヨークレストラン」を経営しました。沖縄に「アメリカンドリーム」を夢見て海を渡った当時、徳富さんはまだ小学生でした。

レストランで働き始めた徳富さんに任された仕事のひとつが、ステーキを焼くためのまき割り作業でした。

沖縄本島北部、深い森が広がる通称「やんばる」からトラックで運ばれてくる丸太を必死に割ってまきを作った作業が今でも忘れられない思い出と言います。



憧れのライフスタイル

レストランで徳富さんが目の当たりにしたのは、豊かなアメリカ人の姿でした。

当時のコザの街はアメリカ兵であふれていました。

女性を連れ、毎晩のように店を訪れる兵士たちは、300グラムのステーキを勢いよくぺろりと平らげ、気前よく大量のドルを落とすようになっていきました。

店で売るハンバーガーも、サンドイッチも、コーラも、飛ぶように売れに売れました。

当時、立派な家が建つのに必要だった2000ドルを、たった1日で売り上げた日もあったというほど、街は好景気に沸いていました。

徳富さんの目に映る米兵はみな“紳士”でした。

「兵士が歩くときには必ずボタンをきっちり締めて、きれいな姿で歩く。飲みに行くときには、床屋で髪を整える。その頃の兵隊は、紳士だった」

太平洋末期の地上戦で焦土となった沖縄。

当時はまだ戦争の爪痕が島じゅうに生々しく残り、人々の生活は厳しいままでした。

ステーキなんて地元の人たちにとっては高嶺の花、夢の食べ物だったのです。

当たり前のように毎晩、ステーキを思うままに楽しむことのできるアメリカ人の生活水準に、徳富さんは憧れのような感情を抱いていました。

しかし、そんなまなざしは、次第に変わっていきます。

アメリカ兵を変えたベトナム戦争



その頃、アメリカはベトナム戦争が泥沼化の一途をたどっていました。

沖縄の基地はベトナムへの出撃拠点となり、多くの兵士がここから戦地に赴きました。

過酷な戦場から戻った兵士たちは変わり果てていました。

紳士的だったふるまいは見る影もなくなり、店での乱闘騒ぎや無銭飲食が増えました。

薬物中毒のような兵士もあちこちに出てきて、店が面していた通りは、夜ごとに異様な空気感に包まれていたと言います。

紳士だった兵士は、もはやトラブルのもととなっていました。

それでも店の経営を維持するためには、彼らに頼るしかありません。

店のものを盗まれようとも、食い逃げされようとも、徳富さんたちはひたすら我慢し続けました。

レジに入りきらないくらいのドルが入っても、徳富さんの心は満たされなくなっていました。



徳富清次さん

アメリカ人の犯罪が絶えなくても、みんな面倒だから、事件化しようとしんない。もうかるからしょうがないということで、ある程度の犠牲はやむをえないと思うこともあった。だけど内心は、『ちくしょう』という気持ちでいっぱいだった。

ないがしろにされた人権

アメリカ統治下の沖縄は、基地があるゆえの事件や事故に悩まされ続けました。

1959年には石川市（現在のうるま市）の宮森小学校にアメリカ軍の戦闘機が墜落。

児童 11 人を含む 18 人が犠牲となりました。

1965 年には読谷村でアメリカ軍がパラシュートをつけて上空から投下したトレーラーが、住宅地に落下し、小学生の女の子が亡くなりました。

アメリカ兵による性犯罪や交通事故も相次ぎました。

本土復帰の 2 年前、1970 年のことでした。

糸満町（現在の糸満市）で 50 代の女性が飲酒運転のアメリカ兵の車にひかれて死亡。

しかし軍法会議は証拠不十分として兵士を無罪とする判決を言い渡しました。

無罪判決からおおよそ 2 週間後、今度はコザ市で交通事故が起きました。

ひいたのはアメリカの軍人、ひかれたのは沖縄の男性でした。

「あの男を基地の中に逃がすな」。

アメリカ軍の憲兵による事故処理を取り囲むように、怒りに満ちた人の数は増えていきました。

“コザ暴動”を撮った高校生

1970 年 12 月 20 日の未明。

集まった群衆は軍関係者の車など 82 台に次々に火を付け、ひっくり返します。

アメリカ統治下の沖縄の人々の怒りを象徴する事件として語られる“コザ暴動”です。

コザ高校の 2 年生だった照屋寛則さん（69）はその夜、異変を感じて自宅を飛び出し、現場に向かいました。

高校の写真部に所属していた照屋さんは買ったばかりのカメラを構え、無我夢中で現場にレンズを向けました。



ひたすら、ただシャッターを押し続けただけ。写真を撮るという行為に集中するだけだった。何が起きているかというのを腕組みをして考えるような余裕もない。



撮影した写真は 30 枚以上。

車がひっくり返り、そこから炎が出る様子やそれを見守る群衆たち。

その日はひたすら現場で写真を撮り続けました。

照屋さんには、忘れられないできごとがあります。

無意識のうちに近くまで寄って撮るんだけど、その瞬間に撮られている人から『写真を撮るな』と言われた。さすがに高校 2 年生だからはっとしますよ。それでカメラを降ろして。一緒になってそれをやるっていうところまでは勇気がなかったわけです。

照屋さんの同級生のなかには、群衆に加わった人もいました。中根学さん（68）はアメリカ軍関係者の車両をひっくり返すのを無意識に手伝っていたといいます。



中根学さん

車をひっくり返す人たちがいる。僕も現場について、2 台ほど手伝った。何しろ坊主頭にトレパン姿ですからね、これが学校の先生に見つかったら危ないなとは思ってはいたのでさりげなくという感じで。

高校生ながらも、たび重なるアメリカ軍関係の事件や事故への不満を抱えていたのです。

アメリカ軍関係の事件があっても基地の中に入ってしまうと終わりみたいな。人権・平和、そういうものは習っていたし、それがすべてないがしろにされているという思い、怒りが子どもながらにあった。

沖縄とアメリカのはざまで

“コザ暴動”の現場に、アメリカの高等弁務官（沖縄統治の最高責

任者) の側近として訪れていた人がいます。
そのときのことを主和津 (シュワルツ) ジミーさん (81) はこう振り返りました。



(高等弁務官は) あれだけ大きくなったということにびっくりしていたよ。けが人がいなかったから本当によかったと。ただ、とても残念がっている様子だった。

ジミーさんは沖縄とアメリカのはざままで戦後を生き抜いてきました。

元の名前は幸地達夫といい、生っ粋のウチナーンチュ (沖縄の人) です。

沖縄戦から3年後、1948年に伊江島で起きたアメリカ軍の弾薬輸送船の爆発事故で父親をなくしました。

その後、アメリカ兵の家庭に養子に入り、渡米。



中央やや右の少年がジ

ミーさん

名前も変えました。

みずからも軍人となり、ベトナム戦争では2度、現地での任務に当たりました。

生まれ故郷の沖縄に戻ったあとは嘉手納基地で働きますが、その能力を見いだされ、沖縄の最高権力者の側近となったのです。



高等弁務官 (左) と主

和津 (シュワルツ) ジミーさん

数奇な運命の中で戦後を生き、沖縄とアメリカの2つのアイデンティティを持つジミーさんに、沖縄の本土復帰50年とはどういったものなのか問うてみました。



主和津 (シュワルツ)

ジミーさん

僕はウチナーンチュでもあるし、アメリカ人でもある。両方のことを考えながらいい方向に行くようにと働いていた。僕は沖縄とアメリカ、お互いの良い所、悪い所もわかる。いずれはアメリカに戻ろうとも思ったが、沖縄ほど良いところはないと思ってずっとここにいる。本土復帰の時は今後の沖縄はどうなるのだろうとも心配したが、今の沖縄は他と比べても負けないくらい豊かになっている。このきれいな海、きれいな島がこれからも続いてほしい。